

2026 年度 一般選抜Ⅲ期(3/6) 国語 出題意図

大問一 出題意図（問題一全体）

問題文は、日本社会の停滞と「リセット願望」を批判し、「訂正する力」の重要性を論じたものである。過去を完全に否定するのではなく、老いを肯定し、過去の蓄積を再解釈して修正し続けることこそが成熟した姿勢であると説く。ネット社会や政治における「論破」や「意見を変えないこと」の弊害を指摘し、対話による変容のプロセスを重んじる筆者の思想を読み解く力が求められる。

出題意図（個別問題）

問一：文脈に応じた適切な熟語（蓄積、停滞、顕著）を選択する語彙力を問うた。

問二：段落構成。「リセット願望」という対立意見の提示、その具体例（震災後や加速主義）、それに対する反論（国の成長と維持）という論理的展開の構造を把握する力を問うた。

問三：品詞の識別。指示語「この」が名詞を修飾する「連体詞」であることを文法的に見抜く力を問うた。

問四：接続詞。具体例（たとえば）や逆接・帰結などの論理のつながりを示す語句を補う力を問うた。

問五：内容理解。筆者の定義する「古い」が、同じ自分を保ちながら過去の過ちを正し、考えを更新し続けることであると的確に読み取る力を問うた。

問六：具体例の特定。日本社会における「変化＝訂正を嫌う文化」の弊害として、過去との矛盾を責めて炎上させるネットの状況などを正しく選択する力を問うた。

問七：記述問題。「訂正する力」を取り戻す必要がある理由について、間違いを認めて意見を変えろという対話の前提が現在の日本では壊れてしまっているため、という論理を本文に即してまとめる記述力を求めた。

大問二 出題意図（問題二全体）

問題文は、記憶のメカニズムを脳科学の視点から解説した文章である。海馬や扁桃体の役割、エピソード記憶の形成、そして記憶の痕跡（エングラム）を探る細胞レベルの研究を紹介している。さらに記憶は蓄積だけでなく「想起（思い出すこと）」が重要であり、刺激をきっかけにニューロン群が再発火するメカニズムを論理的に理解する科学的読解力が問われる。

出題意図（個別問題）

問一：文脈に応じた適切な熟語（現象、解明、大雑把）を選択する表記能力を問うた。

問二：接続詞。例示（たとえば）や換言・結論を示す語句を適切に補う力を問うた。

問三：空所補充。記憶のメカニズム解明により、マウスの記憶を「人為的（意図的）」に操作できるようになったという文脈を読み取る力を問うた。

問四：修飾関係の理解。「今」という副詞が「起こっている」という動詞（動作の進行）にかかっていることを文法的に正確に識別する力を問うた。

問五：内容理解。記憶研究における最大の問題が、情報が脳のどこに、どのような形で蓄えられているかを細胞レベルで明らかにすることであることを読み取る力を問うた。

問六：内容不一致。「想起」に関する説明の中で、発火が沈静化した後に完全に元の状態に戻るわけではなく、変化が維持されるという本文の記述と矛盾する選択肢を見抜く力を問うた。

問七：段落構成。具体例の提示、描写と問い、仕組みの説明、結果という、科学的説明文特有の論理展開を構造的に把握する力を問うた。

大問三 出題意図（問題三全体）

基本的な対義語の知識と、日常的に用いられる慣用句の正確な表現力を問う問題である。

出題意図（個別問題）

問一：社会科学等の文章で多用される概念（保守⇔革新、分散⇔集中、対立⇔協調、受動⇔能動、複雑⇔単純）の対義語関係を正確に理解し、語彙を組み合わせる知識を問うた。

問二：心や身体の一部を用いた慣用句（心を砕く、尻に火がつく、知恵を拝借、警鐘を鳴らす、一息入れる）について、文脈に応じた適切な語句を選択し完成させる語彙力を問うた。